

# 都市再生整備計画(第4回変更)

そね  
曾根地区

ひょうご たかさご  
兵庫県 高砂市

令和5年6月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	兵庫県	市町村名	高砂市	地区名	曾根地区	面積	10.0	ha
計画期間	令和 1 年度 ~ 令和 5 年度	交付期間	令和 1 年度 ~ 令和 5 年度					

<p><b>目標</b></p> <p>大目標: 世代間コミュニケーションの向上を図り、安全・安心で伝統を守り続けられる良好な地域環境の形成          目標1: 世代間交流を活発に行うことによる、地域コミュニケーションの促進          目標2: 災害支援や復旧活動を迅速に行える拠点の確保          目標3: 多様な保護者のニーズに対応するための子育て支援の充実</p>
<p><b>目標設定の根拠</b></p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。          本市は昭和29年から昭和32年にかけて7町村が合併して誕生したため、商業拠点が1ヶ所に集中しておらず、小さな商業拠点が市内に点在している。また、大都市の郊外都市として発展してきた経緯から住宅地を中心とした街並みが広がっている。市内の幹線道路沿いや鉄道駅周辺には商業的土地利用が可能な用途地域等が設定されているため、生活サービス施設や公共施設等が立地し、幹線道路を格子状に計画、整備してきたため、住居から最寄りの生活サービス施設等までの距離が短い傾向にある。一方で、本市の人口は減少し続けており、定住の促進や人口密度と現在の生活サービス水準を維持することが課題となっている。こうしたことから、生活サービス施設や公共施設等が幹線道路沿いや鉄道駅周辺に立地している利点を活かし、住みやすい街の構造を維持するため、今後も幹線道路沿いや鉄道駅周辺により一層、施設の誘導を図っていく。また、居住誘導施策を実施することにより、既存の充実した都市的インフラや市街地の空き家、空き地を効率よく利用し、定住の促進や人口密度を維持していく。          公共交通に関して、本市には2本の鉄道路線と6つの駅があり、市内各所から最寄り駅までの距離が近い傾向にある。しかし、2本の鉄道路線間の距離が長く、その間をバスが運行しているものの、鉄道路線間の乗り換えが難しいという課題があるため、バス路線を中心に公共交通網を見直し、最寄り駅までのアクセスと2本の鉄道路線間の乗り換えのしやすさの向上を図っていく。          公的不動産に関しては、公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設の総延床面積を20年間で15%の縮減を図る。そのため、用途や目的が重複している施設の統廃合や必要性が乏しくなっている施設の廃止を検討するとともに、今後も保有していく施設については、複合化や集約化などを行っていく。また、統廃合や複合化等によって生じる未利用地を売却することにより施設整備費に要する財源を確保する。複合化等施設を建設する場合は、将来の市民ニーズの変化などの状況に柔軟な対応ができるよう、建物用途を変えることを想定したスケルトン・インフィル形式の導入も検討する。</p> <p><b>まちづくりの経緯及び現況</b></p> <p>本地区は、山陽電鉄曾根駅を中心とし、菅原道真が祀られる曾根天満宮を含む、優良な住宅形成をなす市街地が形成されている。          この地区には、播磨地方の代表的な祭りのひとつで、毎年10月に盛大に行われる秋季例大祭があり、「1年は、祭りに始まり祭りに終わる」と言われるほど、地区住民の待ち焦がれる行事である。          華麗で色鮮やかな11地区の布団屋台による練り合わせは勇壮で、兵庫県指定重要無形民俗文化財に認定された一ツ物神事も行われ、毎年、市内外からの観光客が訪れ、地域活性の一翼を担っている。          しかしながら、時代とともに少子高齢化が進行するとともに人口が減少し、空き家の増加で地域のスポンジ化が目立ちはじめている。          また、地区内には狭隘な道路が多く残り、災害時における、避難所までの物資運搬や復旧活動に支障を及ぼす可能性が高い。          地区住民は、更なる少子高齢化と郷土の伝統文化を継承する担い手不足や、地域コミュニケーションの閉塞、災害時の物資運搬や復旧活動を懸念しており、子どもや保護者同士のコミュニケーションの幅が広がる子育て施設の整備、移住者と旧来の居住者が交流し伝統文化を継承できる場の整備や安全・安心な都市基盤の整備を望んでいる。          市としても、市内への移住や定住の施策とし、新婚世帯家賃等補助や新婚・子育て世帯新築住宅取得奨励等の支援、空き家対策、住生活基本計画策定に向け取り組み人口減少対策を行っているが人口減少は顕著は進んでいる。          今後は、地区の内外を問わず世代間交流が活発に行われ、災害時でも住民間で助け合い復旧活動できる地区を構築し、老若男女が伝統文化を守り続けていくまちづくりが求められている。</p>
<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本地区は、今後、11,447人(2015年)が10,179人(2035年)と20年間で1,268人減少していく結果となっている。</li> <li>・人口比率でも、高齢化率が26.7%(H29年)が33.5%(H35年)、少子化率が13.4%(H29年)が10.8%(H35年)と少子高齢化率が著しく上昇している。</li> <li>・災害時、緊急輸送路から避難所に指定のある小学校まで狭隘道路が残っており、救援物資輸送車両・災害支援車両の走行や災害復旧活動に支障を及ぼす。</li> <li>・災害復旧活動や災害者支援活動をスムーズに行えるよう地域防災施設の設置が望まれている。</li> <li>・移住者と旧来の居住者が交流し伝統文化を継承できる場の整備が望まれている。</li> <li>・保護者の就労形態により子どもたちの預け先が異なるのではなく、地域の友達同士と一緒に通うことができ、保護者間のコミュニケーションも生まれる認定こども園の整備が望まれている。</li> <li>・既存施設(公民館・保育園)が老朽化しており、耐震基準も満たしていないため建て替えが必要となっている。</li> <li>・保育所、幼稚園、小学校周辺の道路において、安全対策が求められている。</li> </ul>
<p><b>将来ビジョン(中長期)</b></p> <p>「第4次高砂市総合計画(後期基本計画)」(平成28年3月策定)において、地域のまちづくり方針として以下のように位置付けられている。          ・伝統的、歴史的な郷土芸能や文化財は市民の誇りであり財産です。それらの保護・保存・継承・活用に努めるとともに、それらを情報発信することにより、郷土に対する認識を深め、市民のふるさと意識を醸成します。          ・地域団体を通じて、地域でのコミュニティ形成や市民相互の連帯感の醸成に向けて、情報の共有化を図り、地域主体のまちづくりを進める環境づくりを推進します。          ・就学前の子どもの教育・保育及び子育て支援を一体的に提供する幼保連携型認定こども園への移行を推進します。また、施設環境の整備に取り組みます。          ・消防団員の確保を図るとともに、事業所等の消防団活動に対する理解と協力を求め、活動環境の整備を推進します。</p> <p>「高砂市都市計画マスタープラン」(平成23年4月策定)において、地域のまちづくり方針として以下のように位置付けている。          ・生活道路の改良等による住環境及び防災機能向上          ・学校など既存の公共施設の有効利用          ・防災活動拠点としてのコミュニティ防災拠点の整備充実</p>

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

- ・市内の幹線道路沿いや鉄道駅周辺に商業的土地利用が可能な用途地域等が設定されているため、生活サービス施設や公共施設等が幹線道路沿いや鉄道駅周辺に分散立地している。その利点を活かし、今後も幹線道路沿いや鉄道駅周辺に施設を誘導していく。
- ・若い世帯の定住促進を図るため、子育て支援施設を中心に誘導する。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

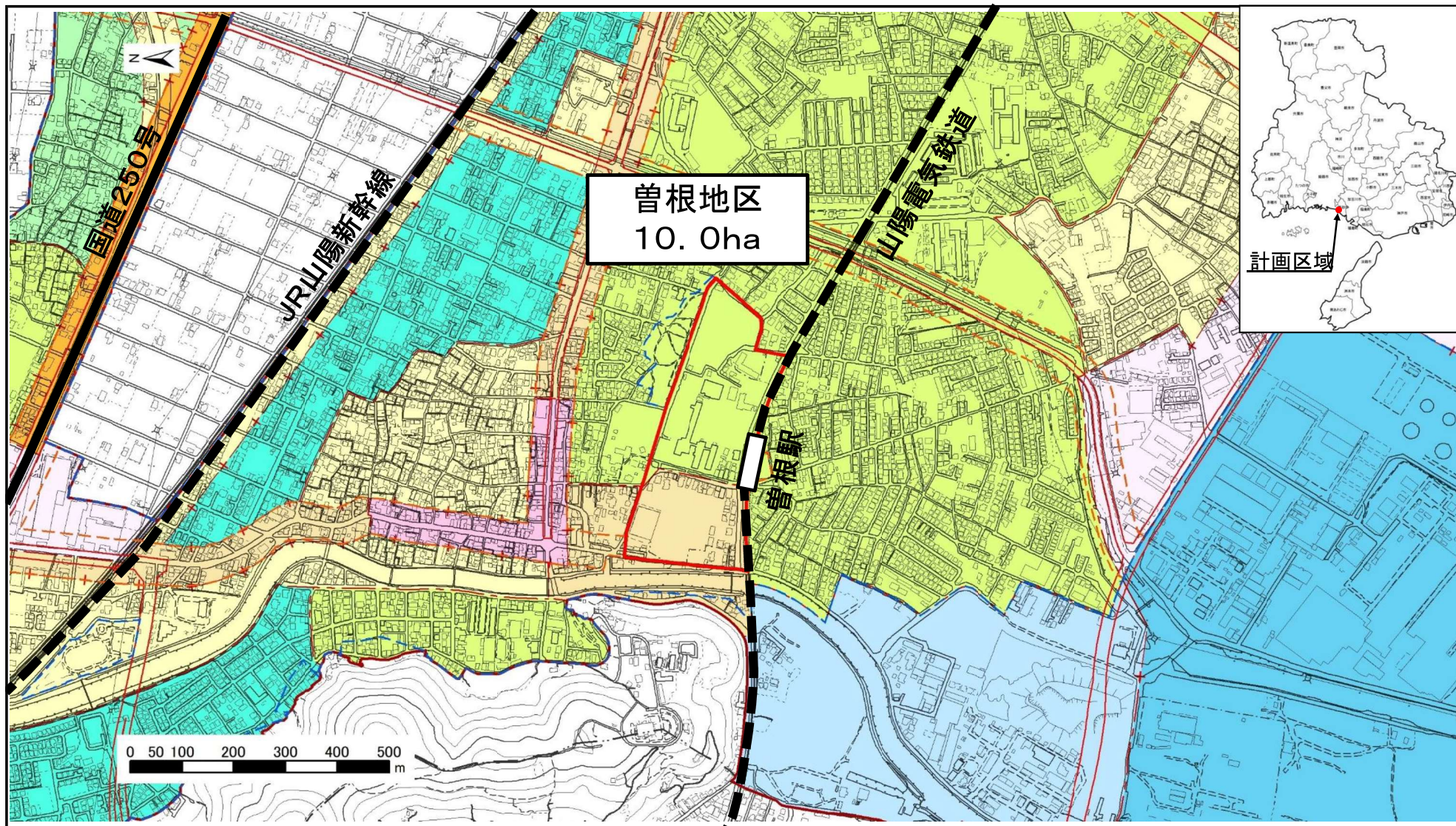
目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度	目標年度	目標年度
地域交流活動団体の年間活動数	回/年	地域交流センターで活動している地域交流活動団体の年間活動数	世代間交流の向上を目的とし、地域コミュニケーションや活動促進を図る。	214	250	H29	R5
防災拠点への救援物資搬送時間の短縮	分	救援物資を防災拠点まで搬送する時間を短縮	消防備蓄倉庫を整備することにより、防災拠点までの救援物資の搬送時間を短縮する。	9	1	H29	R5
地域の子育て支援事業の参加人数	人	認定こども園(高砂・中筋・阿弥陀・北浜・曾根)における地域の子育て支援事業の参加人数	地域の子ども・子育て中の保護者に対し、子育て相談や親子の集いの場の提供、子育て関連の講習会の開催などの子育て支援事業を行うことで地域における子育て支援の中核施設としての役割を担う。	2000	2900	H29	R5
3・4・5歳児の就園率	%	就学前のこどもに対する就園しているこどもの割合	多様な保護者のニーズに対応するための子育て支援の充実を図るとともに施設整備に取り組みを行う。	87.7	95.4	H29	R5

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・幅広い世代が交流し合えるコミュニティを活発に行い、伝統文化の担い手を育てる。                      地域コミュニティの拠点となる、地域交流センターの建設と周辺整備により、世代間交流の促進の場とする。                      また、老朽化した保育園を活用し、認定こども園の整備及び子育て支援センターの建設を行い、保護者間のコミュニケーション向上を目指し、多世代がふれあえるイベント等を市民交流広場等で催すことで地域コミュニティの更なる醸成を図っていく。</p>	<p>地域生活基盤施設(基幹事業)                      ・市民交流広場                      ・駅前自転車駐車場                      高次都市施設(基幹事業)                      ・地域交流センター                      ・子育て世代活動支援センター                      誘導施設(基幹事業)                      ・認定こども園</p>
<p>・災害時でも、迅速に復旧活動できる拠点の確保                      災害時において、地域交流センターを一時避難所に活用し、消防団や自主防災組織が迅速に復旧活動ができ、また、防災拠点まで救援物資が迅速に運搬できるよう消防備蓄倉庫の整備を行う。                      また、地域活動拠点の場とし市民交流広場を開放することにより活動場所の確保を目指す。</p>	<p>地域生活基盤施設(基幹事業)                      ・防災備蓄倉庫                      ・市民交流広場                      高次都市施設(基幹事業)                      ・地域交流センター</p>
<p>・少子化や多様化する保護者のニーズに対応した安全で安心な子育て支援                      保護者の就労形態に影響されず利用できるこども園には、同じ地域のこどもたちが一つの場所で交流できることより、安心して学び遊べる。                      安全対策を施した認定こども園を整備することにより、子どもだけでなく保護者間にもコミュニケーションが生まれ、新たな地域交流の場としての役割を目指す。                      また、子育て支援センターを隣接することで、乳幼児を抱える親子がつどい、遊びやおしゃべりを通しコミュニケーションが図れ、子育てについての情報交換が行える。                      こども園の保護者と乳幼児を抱える保護者がコミュニケーションが図れる場があることで、子育てしやすい環境づくりを目指す。</p>	<p>道路(基幹事業)                      ・市道伊保・曽根準幹線道路等                      地域生活基盤施設(基幹事業)                      ・駅前自転車駐車場                      ・市民交流広場                      高次都市施設(基幹事業)                      ・子育て世代活動支援センター                      誘導施設(基幹事業)                      ・認定こども園</p>
<p>その他</p>	
<p>立地適正化計画(令和2年2月策定、3月公表)</p>	



曾根地区(兵庫県高砂市)	面積	10.0 ha	区域	高砂市曾根町の一部
--------------	----	---------	----	-----------



曾根地区(兵庫県高砂市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標: 世代間コミュニケーションの向上を図り、安全・安心で伝統を守り続けられる良好な地域環境の形成	代表的な指標	地域交流活動団体の年間活動数 (年/回)	214	(H29年度)	→	250	(R5年度)
	目標1: 世代間交流を活発に行うことによる、地域コミュニケーションの促進		防災拠点への救援物資搬送時間の短縮 (人)	9	(H29年度)	→	1	(R5年度)
	目標2: 災害支援や復旧活動を迅速に行える拠点の確保		地域の子育て支援事業の参加人数 (分)	2,000	(H29年度)	→	2,900	(R5年度)
	目標3: 多様な保護者のニーズに対応するための子育て支援の充実		3・4・5歳児の就園率 (%)	87.7	(H29年度)	→	95.4	(R5年度)

